

令和2年度中山道広重美術館事業計画

中山道広重美術館は、開館19年目を迎え、当公益財団法人が恵那市からの指定管理業務を受託して6年目となる今年は、東京2020オリンピックが開催され、外国からの来訪者が増加することが予想される中、あらためて全国的に数少ない浮世絵の専門美術館としての使命を果たし、来館者により大きな感動と満足感を持ち帰っていただけるよう努めなければならない。

そのため、令和2年度の事業では、広重の浮世絵作品を中心に、ジャンルごとに概観することを目的とした展示を企画し、連続講座では、「広重を見る―絵師・様式・時代を越えて―」をテーマに、広重の画業をさまざまな角度から振り返る全6回で計画し、各講師に講演いただく。

まず展示事業では、春の特別企画展として「江戸から東京へ」を開催する。2020オリンピックの開催を記念して、江戸時代から400年にわたり政治・経済・文化の中心地として栄え、江戸から東京へと移り変わる様を、広重の「名所江戸百景」を中心に、東京を題材とした近代版画とともにご覧いただき、8月には、当館コレクションの中でも最も美しい恒例の特別展観「木曾海道六拾九次之内」を開催、続いて10月からは、秋季特別企画展「黄金の浮世絵 美人画と役者絵 歌麿とその時代」を開催する。

本展では、喜多川歌麿と共に美人画の分野で活躍した鳥居清長、役者絵に長けた東洲斎写楽や勝川春章を取り上げる。2月には、財団基金で昨年度購入した浮世絵の新たな魅力を発見できる三代豊国と広重の合筆「双筆五十三次」揃物のお披露目展示も開催する。

教育普及事業では、連続講座「広重を見る―絵師・様式・時代を越えて―」をテーマに、広重が他の浮世絵師や流派からどのような影響を受け、海外や明治期以降に活躍した画家たちへ影響を及ぼしたのかを、えりすぐりの講師陣による解説で迫ります。

また、将来の学芸員を育成するための実習生の受け入れを続けるとともに、第17回広重賞こども版画コンクールを開催する。

施設整備では、建設から19年を迎え、機能低下や老朽化が目立ってきていることから、今年度は市事業での雨漏り防止修繕事業を実施するとともに浮世絵や広重の人物紹介映像を見せるための放映設備の更新を行う。

平成29年10月から開始した、企業からの金銭的支援を得て観覧料を無料とする美術館スポンサー制度は、地元3社の協賛により毎週金曜日を終日観覧無料としており、3年目を迎え、市民や旅行者にも認知されてきており、さらにその輪が広がるよう働きかけていく。以上、来年度の開館20周年を迎えるにあたり、これまで取り組んできた活動の一つ一つを大切にしながら、一方では新しい試みにも挑戦しつつ、浮世絵専門美術館としての役割を高めていきたい。

1. 公益目的事業
展示

	区分	事業名	開催期間	事業概要
1	春季特別展	江戸から東京へ	前期 4月2日(木) ～5月10日(日) 後期 5月14日(木) ～6月14日(日)	今年、東京五輪が開催されます。そして浮世絵にも江戸の各地が題材として取り上げられ多く描かれてきました。本展では、広重の「名所江戸百景」と共に、東京を題材とした近代版画も併せてご覧いただく。五輪開催を記念して、江戸から東京へ移り変わるさまを、浮世絵で楽しむ。
2	企画展	お江戸草花デザイン集	6月18日(木) ～7月19日(日)	時には、写生の対象として、または風景の中の一要素として、あるいは工芸意匠として、まさに花を添える草花。本店では、広重花鳥画と共にガラス工芸品なども展示し、多彩に描写された草花の姿をご覧いただきます。
3	企画展	お江戸人物スナップ集	7月23日(木・祝) ～8月23日(日)	風景画の絵師として名を立てた広重もまた、巧みな人物描写により、たくさんの魅力的な美人画や芝居絵を残しています。広重の人物表現に焦点を当てた展覧会です。
4	特別展観	木曾海道六拾九次之内	8月27日(木) ～10月4日(日)	当館コレクションの中でも最も美しい揃物の一つである《木曾海道六拾九次之内》を、全点展示。歌川広重と溪斎英泉、江戸の二大浮世絵師が中山道をテーマに描いたシリーズです。

	区分	事業名	開催期間	事業概要
5	秋季特別展	黄金期の浮世絵「美人画と役者絵 歌麿とその時代」展	前期 10月8日(木) ～11月8日(日) 後期 11月12日(木) ～12月6日(日)	江戸時代中期の浮世絵師で美人画の大家・喜多川歌麿。彼が活躍した時代は、浮世絵の黄金期と呼ばれている。本展では、歌麿と共に美人画の分野で活躍した鳥居清長、役者絵で長けた東洲斎写楽や勝川春章を取り上げ、黄金期の浮世絵作品を紹介します。
6	企画展	「二代広重」 —受け継がれた広重イズム—	12月10日(木) ～3年1月17日(日)	初代広重の没後、門人たちがその名を襲名染ましたが、師の画風を最も忠実に受け継いだのは、二代広重と言えるでしょう。彼は作品を手掛けていた頃は、まさに江戸と明治の狭間でした。移り変わる時代を生きた絵師・二代宏そげが受け継いだ広重イズムをご覧ください。
7	企画展	「五十三次名所図会」	1月21日(木) ～2月23日(火・祝)	広重は生涯に二十余の東海道をテーマとした揃物を制作しましたが、《五十三次名所図会》(通称縦絵東海道)は、唯一画面を縦に使って描いた作品です。俯瞰的な構図を多く用いた、まさに名所図会を思わせる晩年の大作です。
8	企画展	「双筆五十三次」お披露目	2月27日(土) ～3月28日(日)	三代豊国と広重の合筆《双筆五十三次》が当館収蔵品となりました。本揃物は、東海道の各宿場を背景にして、前景に大きく人物を描いているのが特徴。宿場風景は広重が、人物は三代豊国が手がけました。幕末を代表する絵師たちの豪華なコラボレーションをお楽しみください。

教育・普及・調査研究等

	区分	事業名	開催時期	事業概要
1	連続講座	広重を見る一絵師・様式・時代を越えて一	①4月11日(土) ②5月16日(土) ③6月20日(土) ④10月10日(土) ⑤11月14日(土) ⑥12月5日(土)	①渡邊晃氏「広重と国貞」 ②秋田達也氏「広重と北斎」 ③岡野智子氏「広重と江戸琳派」 ④畑江麻里氏「広重とジャポニスム」 ⑤西山純子氏「広重と巴水」 ⑥桑山童奈氏「初代広重と二代広重、三代広重」
2	研修受け入れ事業	学芸員実習 職場体験 学校出前講座	随時	近年、大学等からの要望が多い学芸員実習、高校生のインターンシップ、中学生の職場体験を受け入れる。また、学校へ学芸員が出向いて授業の中で、浮世絵美術を説明する出前講座も実施する。
3	中央通り商店街連携事業	ゆかたで涼む美術館(夜間8時まで無料開館)	8月中旬	美術館で江戸の夏の風情を楽しんでいただく恒例企画。浴衣でご来館のお客さまに各種サービスを実施。中央通り商店街夏祭りとの連携事業。
4	版画公募展	第17回広重賞子ども版画コンクール	7月～3月	市内の子どもたちに、自己を表現する喜びや作品をつくり出す楽しさを体験させることを目的に開催。
5	調査研究事業	収蔵作品データベースの再構築	4月～	当館収蔵作品のデータベースを全て再確認。使い易く再構築して、公開を目指す。
6	令和3年度	開館20周年特別企画展開催に向けての	展示作品の調査、研究及び資料収集。	
7	令和4年度	に向けた	展覧会の企画構想に関する調査、研究。	

2. 収益事業

(1) ミュージアムショップの運営

- ・ネットショップの開設
- ・当館オリジナルグッズの企画・販売
- ・美術関連商品の企画・販売
- ・展覧会関係グッズ、図録の販売

3. 管理事業

(1) 理事会、評議員会の運営

(2) 美術館施設・設備及び収蔵美術品の適正な管理

- ・浮世絵学習映像の放映設備の更新

(3) 法人の運営